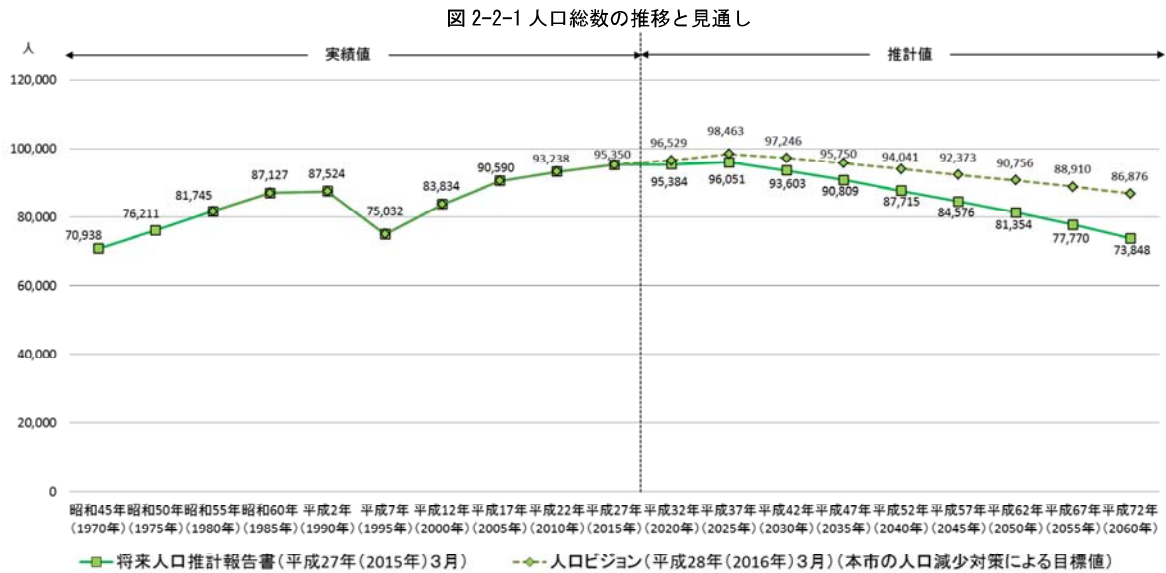


## 2 人口についての今後の見通し

### (1) 人口総数の推移と見通し

本市の人口総数の推移をみると、平成7年（1995年）までは増加を続けていましたが、阪神・淡路大震災の影響により、一旦減少しました。その後は震災復興事業に伴って徐々に人口は回復し、平成17年（2005年）には震災前の人口を上回り、9万人を超え、平成22年（2010年）は93,238人、平成27年（2015年）は95,350人となっています。

今後の人口総数の見通しを「将来人口推計報告書（平成27年（2015年）3月）」及び「人口ビジョン（平成28年（2016年）3月）」における長期目標からみると、平成72年（2060年）にそれぞれ73,848人、86,876人と見通され、平成27年（2015年）の人口と比較して、それぞれ約23%、約9%の減少となります。



出典：実績値：昭和45年（1970年）～平成27年（2015年）国勢調査  
推計値：将来人口推計報告書、人口ビジョン

## (2) 年齢3区分別人口の推移と見通し

国勢調査から本市の年齢3区分別人口の推移をみると、年少人口は阪神・淡路大震災の影響により、平成7年（1995年）に大きく減少しましたが、平成17年（2005年）から平成22年（2010年）まで増加し、平成27年（2015年）に再び減少に転じました。生産年齢人口も阪神・淡路大震災の影響により、平成7年（1995年）に大きく減少し、その後は平成17年（2005年）まで増加傾向にありましたが、平成22年（2010年）に再び減少に転じました。高齢者人口は一貫して増加傾向にあります。また、平成7年（1995年）を境に高齢者人口が年少人口を上回る状況になっています。

今後の見通しを「将来人口推計報告書（平成27年（2015年）3月）」からみると、平成72年（2060年）に年少人口が7,850人、生産年齢人口が38,851人、高齢者人口が27,147人と見通しています。これは、平成27年（2015年）の人口と比較して、年少人口が約37%減少、生産年齢人口が約31%減少、高齢者人口が約3%増加すると見通しており、年少人口、生産年齢人口ともに大きく減少すると見通しています。

